

猿の物真似 (二)

やまとの翁

猿どのふ獸は、元來非常に狡猾ですから、鐵砲を以て射て取るなどは、中々六かしい。何故かといふと、一寸でも、撃つ風を見せると、ちき隠れて仕舞ふからです。ですから、翁が、さつきお咄した様に、猿に真似させて取る様なことをするんです。

で、も一つ、こんなお話しして見ませうか。田なかの山へ行くと、例の猿どもは、大勢樹の枝に留つて、しきりに、キー／＼と云つて騒いで居ましょー。そこで獵師は、鐵砲など見せる、すぐ逃げられますから、そんなものは持て行かないで、天坪棒一本丈さげて行くんですが、さて猿どものある所へ行きまして、例の通り、よく見える所へ行つて、素知らぬ顔して天坪棒

を以て、しきりに船をこぐ風をして居るんです。

すると、今迄騒いで居つた猿どもは、急に黙つて、

仕舞て、ジツト眺めて居る。はてな、人間と云ふものは、奇妙なことをするもんだなど云ふ様な顔附して、

見て居る。暫すると一匹の猿は、忽考へ付いた様に

自分の頭の上にある樹枝を握んで獵師のやうてる様な

具合に船とぐ風をやり出す。獵師は、これを見て、

さー占めたと思つても態と見ない風して一生懸命に、

下でやつて居れば、猿も一生懸命に立つて、上でやつ

て居る。もー宜い時分だと思ふ時獵師は忽、天坪棒を

捨て、仰向に倒れる。すると猿も、いきなり杖を離し

て仰向に倒れるから、さー堪らない。四五間も高い樹

の上から落ちて、いやといふ程身體を岩の上で打つ

けるもんだから立つことも出来ないで、もがいて居る

所を獵師は、いきなり走つて行つて縛つて生擒にして

歸るんですよ。

無精較

▲ある處に二人の無精者が居つた。一人の無精者が云ふには

「どうだ、今から二人で、無精較をしよーじやないか」

すると今一人は、

「僕はするのも面倒臭い」

▲これも一人の無精者、ある時旅をして田舎を歩いて居つた。所が丁度晝ごろになつて來て腹が空いて耐らなくなつた、勿論腰には辨當を下げて居るのであるが懐手をしてる手を出して、これを取るのが、面倒なので、「まゝよ、仕方がないは、誰かに出遭ふに違がないから、そしたら其人に取つて貰ふまでのこつた」

など、思つて腹の空いたのも我慢して歩いて居つた。

すると向うから、饅頭籠をかぶつて、顔を少し仰向にして大きな口を張つて懐手としながら来るものがあつたので、「や、彼はきつと腹が空つてるのに違ない夫で口をあんなに開けてるのだ、一つ彼に相談をして見よー」と云ふので、側近くなつてから、

「もし、口を御開けなすつてる所から見ますと、貴所はお腹が空いてるのでせう。私も同じく空いてますので、實、腰に辨當も下げてるんですが、夫を取り出すのが、少々面倒うなので申しかねますが、握飯を一つ御別まうしますから、一つ取つて頂けますまいか」

すると其男は口を開たまゝで「なーに私だつて籠の紐が解けかゝつてるのをこゝろして口開て顔で止めて居ますのよ」